



—記者発表資料—

令和5年3月16日
日本下水道事業団

**カンボジアで
POD コンセプトによる小規模下水処理法の現地適応性に係る
実証事業の報告セミナー及び視察会を開催**

日本下水道事業団は、国土交通省から受託した 2022 年度下水道技術海外実証事業 (WOW TO JAPAN) において、実証結果報告セミナー及び視察会を開催しました。

2月24日(金)に「カンボジアにおける POD^{*1}コンセプトを用いた小規模下水処理法の現地適応性に係る実証事業」に於いて、実証を行っているカンボジア王国タケオ州バティ郡にて実証結果報告セミナー及び視察会を開催しました。このセミナーは、日本下水道事業団と株式会社神鋼環境ソリューションが共同提案し、国土交通省に採択された 2022 年度下水道技術海外実証事業 (WOW TO JAPAN) の一環として開催したものです。当日は国土交通省、カンボジア王国公共事業運輸省、タケオ州政府をはじめ、関係者約 50 名が出席されました。

カンボジア王国における下水道整備はプノンペン都では汚水/雨水対策マスタープランが見直され本格的な下水処理施設整備が始まっている一方、地方都市では整備が追いついておらず、家庭排水の垂れ流しによる河川や湖沼の水質汚染問題が顕在化しています。また、地方都市では集落が点在していることから、集中処理では集水管設置コストが嵩むことが課題となっています。

上記課題の解決を目指し、本実証では、日本国内でも多くの中小市町村で導入されている小型且つパッケージ化された下水処理装置を採用しました。2022 年 10 月から行っている実証試験では、近年規制値の厳しくなるカンボジアの排水基準を満たすことを目的としており、建設からこれまでの運転結果に関する説明、今後の取り組みや標準化による普及活動、下水汚泥による消化発電など、将来のカンボジアにおける下水及び汚泥利活用技術について報告しました。

日本下水道事業団は、アジア汚水管理パートナーシップ (AWaP) 参加国であるカンボジアにおいて、本邦技術の導入による水環境改善のための下水道事業の案件形成活動を実施しております。今後とも国土交通省や民間企業と協働し、カンボジア王国の下水道整備を強力に支援してまいります。

なお、株式会社神鋼環境ソリューションにおいても、同様の記者発表を実施する予定です

(*1)POD: Prefabricated Oxidation Ditch (プレハブ式オキシデーションディッチ法)
オキシデーションディッチ法の優れた特性を生かしながら、小規模施設向けにシステムのパッケージ化と部材のプレハブ化を行ったもの

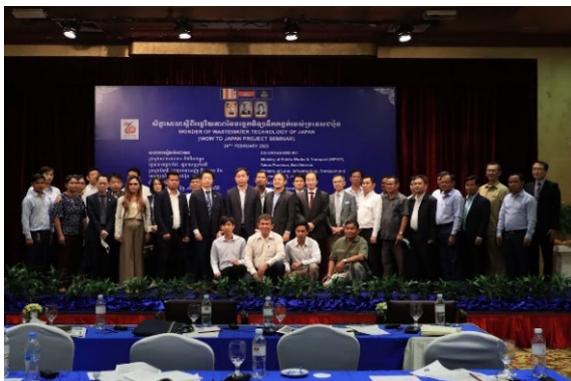
【案件概要】

実証先： タケオ州バティ郡サムロン・ヤン市場近郊

施設規模： 100m³/日

契約範囲： 下水処理設備（POD コンセプト）の設計、調達、製作、試運転

実証期間： 2022年10月～2023年3月（4月から神鋼環境ソリューションの自主活動を支援）



【報告セミナーの様子】



【視察会の様子】 ※実証機の前で



【公共事業運輸省下水道総局長挨拶】



【流入原水及び処理水】

<問い合わせ先>

日本下水道事業団

国際戦略室長 岩崎 宏和

TEL : 03-6361-7814

E - mail : Iwasaki07@jswa.go.jp